

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1 . 概 況

県内の景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。

最終需要の動向をみると、公共投資が前年を下回ったほか、住宅投資が低調に推移しており、設備投資も大幅に減少している。また、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

こうした中、生産は引き続き持ち直しているが、雇用情勢は厳しい状況が続いている。

2 . 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、主力の冬物衣料が低調に推移しているうえ、食料品も落ち込んできたことから、前年割れが続いている。スーパーでは、消費者の生活防衛意識の強まりを反映して、販売点数の低下、単価の下落に歯止めがかかっておらず、前年を下回って推移している。この間、初売り商戦は、スーパーでは総じて低調な動きであったが、百貨店はほぼ前年並みとなった。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント効果により薄型テレビや冷蔵庫が好調に推移しているほか、新製品の投入を受けパソコンも持ち直してきたことから、全体では前年を上回って推移している。

(新車登録台数)

12月の新車登録台数は、乗用車が前年を5割方上回ったことから、全体では前年を3割弱上回った。昨年1年間では、乗用車が前年を若干上回ったものの、貨物車や軽自動車の前年割れとなったことから、全体では4%とわずかながら前年を下回った。

(2) 公共投資

12月の公共工事請負金額は、国からの発注が大きく落ち込んだことから、3カ月ぶりに前年を下回った。

(3) 住宅投資

11月の新設住宅着工戸数は、貸家が落ち込んでいることから、10カ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2009年度の設備投資計画(12月短観調査結果*)は、設備過剰感や需要の先行き不透明感が依然強いことから、大幅に減少している。

*09年度計画・前年度比：製造業 41.0%、非製造業 12.7%、全産業 38.0%

3. 生産動向

生産は、持ち直しの動きが続いている。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、東アジア諸国からの受注増加を主因に持ち直しの動きが続いているが、増勢は鈍化している。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、政策対応を受けた国内外の需要の回復から、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジア諸国からの受注回復を背景に、減産を緩和している。建設機械部品は、海外需要の回復を受け、持ち直してきている。一方、工作機械は、依然受注が低迷しており、減産を継続している。

(その他)

窯業・土石は、民間需要の減少から減産を継続しているが、木材・木製品は、在庫調整の進捗などから減産を緩和している。鉄鋼は、タイヤメーカーからの受注増加を受けて持ち直しているが、増勢は鈍化している。この間、食料品は、全体としてほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

11月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.34倍（前月：0.35倍）と、4カ月ぶりに低下。新規求人倍率（同上）も、0.64倍（前月：0.72倍）と3カ月ぶりに低下した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回っていることなどから、前年割れが続いている。

5. 企業倒産

12月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が4件（前月4件、前年同月10件）、負債総額が13億70百万円（前月4億54百万円、前年同月30億62百万円）と、件数は9月、11月と同件数の年間最少、負債総額は年間6番目の低水準となった。

21年中の倒産件数は、95件と3年ぶりに100件を割り込んだ。もっとも、負債総額は、90億円を超える大型倒産が2件発生したこともあって、歴代6番目の高水準となった。

6. 金融面の動向

預金動向は、個人預金が堅調に推移しているうえ、緊急保証融資資金の歩留まりもあって法人預金も増加基調にあるため、前年を上回って推移している。

貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加していることなどから、前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先

日本銀行盛岡事務所

TEL：019-624-3622（代）

<http://www3.boj.or.jp/morioka/>